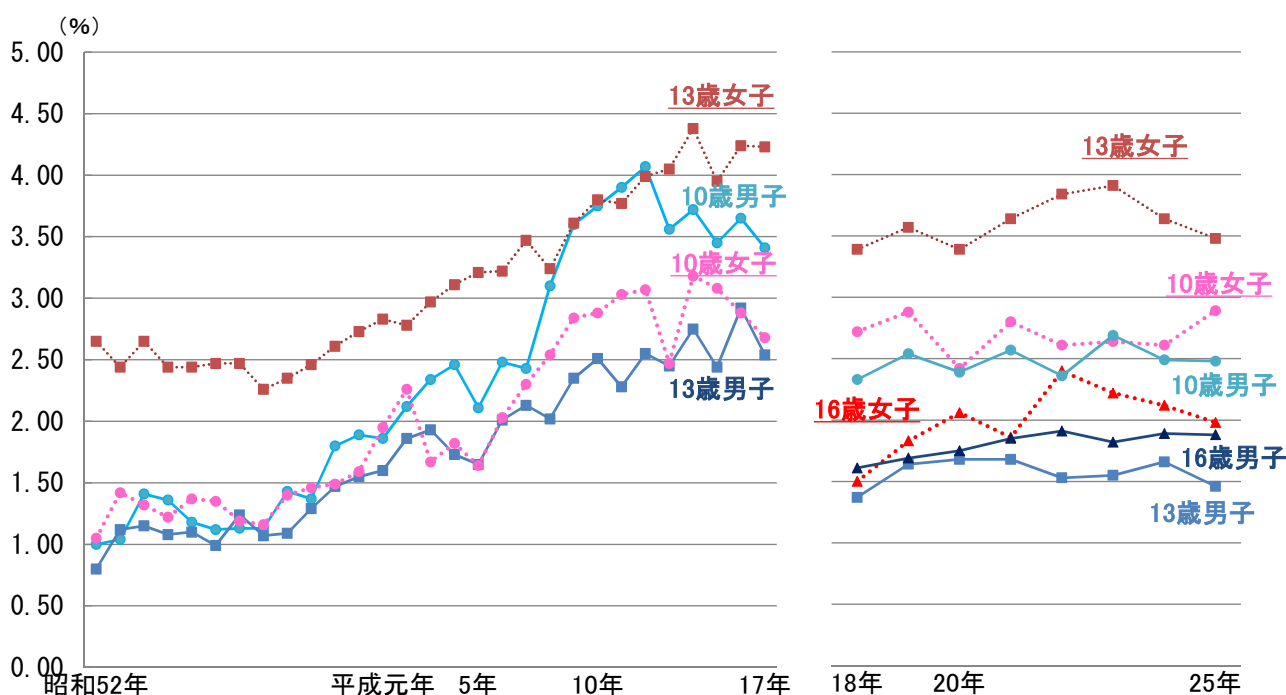


次期計画において 新たに検討する指標 (課題Aについて)

A-4 児童・生徒における痩身傾向児の割合

痩身傾向児の割合は、男子も女子と同様に増加している。



※平成18年より痩身傾向児の算出方法が変更になっている。

(学校保健統計調査)

A-8 子どもの食に関する指標について

残された課題

- 国民健康・栄養調査は、対象となる子どもの人数が限られており、評価の解釈が困難。
- 子どもだけでなく、親の欠食状況も把握して比較検討することが必要。

委員からのご意見

- 継続して把握できるデータから指標を検討すべき。
- 共食の状況を把握することで、家庭全体の食事に対する意識や行動を確認することができるのではないか。
- 「三食」という捉え方があっていいのではないか。

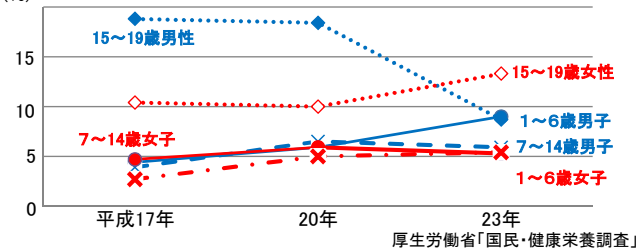
食に関する国の施策等

指標・目標	国の施策等	具体的な内容・目標値等	データソース
朝食の欠食(摂取)	健やか親子21 〈厚生労働省〉	朝食を欠食する子どもの割合 → なくす	国民健康・栄養調査(厚生労働省)
	第2次食育推進基本計画 〈内閣府〉	朝食を欠食する国民の割合 → 子どもは0%にする	「児童生徒の食生活等実態調査」 ((独)日本スポーツ振興センター)
	子供の基本的な生活習慣の形成 〈文部科学省〉	「早寝早起き朝ごはん」国民運動の推進等	—
共食	健康日本21(第二次) (栄養・食生活) 〈厚生労働省〉	共食の増加 (食事を1人で食べる子どもの割合の減少) → 減少傾向へ	「児童生徒の食生活等実態調査」 ((独)日本スポーツ振興センター)
	第2次食育推進基本計画 〈内閣府〉	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加※ → 朝食+夕食を週10回以上とる	「食育に関する意識調査」(内閣府)
食事のとり方	健康日本21(第二次) (次世代の健康) 〈厚生労働省〉	朝・昼・夜の三食を必ず食べることに気をつけて食事をしている子どもの割合 → 100%に近づける	「児童生徒の食生活等実態調査」 ((独)日本スポーツ振興センター)

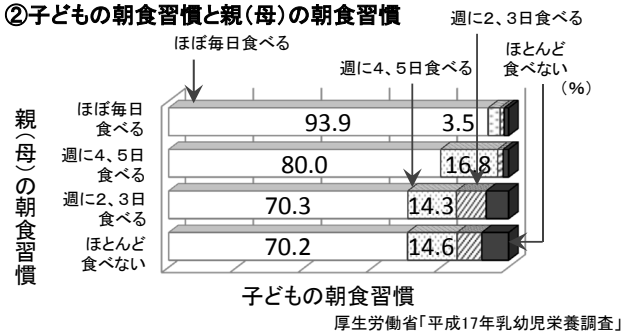
※ 20歳以上を対象にしたデータソースを踏まえた成人を対象とする目標

子どもの食に関する実態

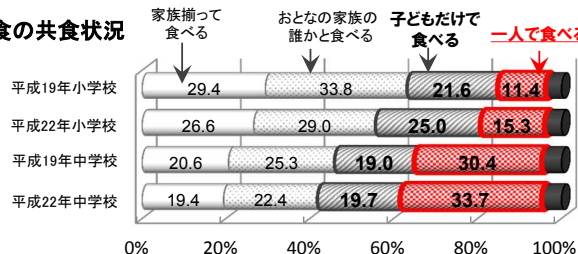
①朝食の欠食率の年次推移(性・年齢階級別)



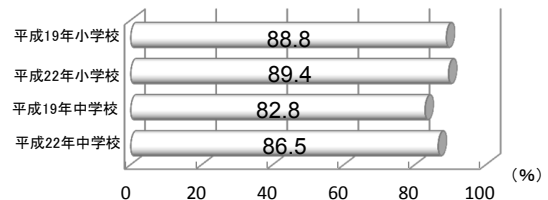
②子どもの朝食習慣と親(母)の朝食習慣



③朝食の共食状況



④朝・昼・タ三食必ず食べることに気をつけて食事をする割合



③④ (独)日本スポーツ振興センター「児童生徒の食生活等実態調査」

家族との共食と食生活や健康との関連について

関連項目	概要
健康状態との関連	○家族との共食頻度が低い児童では肥満・過体重が多い ¹⁾²⁾ 。 ○共食頻度が高い者は、精神的な健康状態が良好 ³⁾ 。
食物・栄養素等摂取状況との関連	○家族と共に食事を食べる子どもは栄養バランスなど食生活の状況が良い ⁴⁾ 。 ○週に3回以上共食している人は、ご飯、魚、野菜など「よく食べる」人が多いなど、食物摂取状況が良好な傾向 ⁵⁾ 。
その他	○朝食の共食頻度は、幼児の規則正しい生活習慣及び母親から見た父親(夫)の協力的な育児参加と関連あり ⁶⁾ 。

1) 徳村光昭他: 日本小児科学会雑誌, 108(12), 1487-1494(2004)

2) Yuasa K et al: The Journal of Medical Investigation, 55, 71-77(2008)

3) 小西史子他: 小児保健研究, 60, 739-748(2001)

4) 佐々尚美他: 日本家庭科教育学会誌, 46, 226-233(2003)

5) Atuko Kusano - Tsunoh et al: Tohoku J. Exp. Med., 194, 121-127 (2001)

6) 会退友美他: 栄養学雑誌, 69, 304-311(2011)

A-9 歯肉に炎症がある中高生の割合

【十代における歯肉炎保有者の割合】

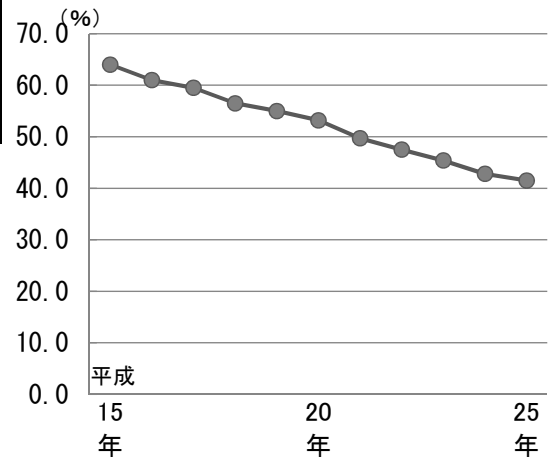
現状			目標
平成11年度	平成17年度	平成23年度	平成34年度
23.3%	25.1%	25.7%	20%

※軽度の歯肉炎症の代表的な所見である出血を表すコード1を有する者を歯肉炎保有者とした。

(歯科疾患実態調査結果より)

- 歯肉炎予防は学齢期の口腔保健の向上を図る上で重要な課題であり、成人期以降の歯周病対策にもつながる大きな健康課題。
- 歯肉に炎症がある中高生の割合は、平成11年から推移に変化なし。
- 歯肉炎は正しい歯口清掃を行うことで可逆的に改善するもの

(参考)う蝕のある12歳児の割合



(学校保健統計調査より)

- 小児の健全な育成のために、う蝕予防は重要。
- フッ化物歯磨剤の市場占有ならびに使用者割合ともに約9割に達している。

(「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」に関する目標等について)

A-11 学校と連携した健康等に関する講習会の開催状況 (1)

課題

- 若者が自ら考え取り組むような指標が必要。 ○健康な女性への健康支援が必要。
- 妊娠や出産等、自分の健康や身体の変化を若い時期から知っておくことが必要。

取組例

高校生ICT Conference

【主催】

一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構、安心ネットづくり促進協議会、大阪私学教育情報化研究会

【目的】高校生同士が、身近な携帯電話やインターネットの問題を通して、共に考え議論し、まとめ、発表することで、コミュニケーション力とプレゼンテーション力を育むこと。また、将来の社会人、保護者として育成するとともに、主体的に諸問題の理解と社会や年少者に対する行動を促すこと。

【取組内容】

平成23年に「高校生熟議」として大阪でスタート。『熟議』の手法を使い、参加高校生が複数のグループに分かれて、初対面で『情報モラル・情報リテラシー』について、「考え、まとめる、話す、聞く、見せる、伝える」ことを通じて共に学びあう。

※高校生ICT Conference2013
北海道、東京、奈良、大阪で開催。



○高校生ICT Conference

<http://www.ema.or.jp/education/events/hicof.html>

リテラシー
教育

性教育

思春期保健 学校、保護者へのアプローチ

【主催】北九州市子ども家庭局子育て支援課
(医療・学校・地域・行政等の関係者による)

思春期保健連絡会)

【目的】思春期の子どもたちが、心身の変化を正しく理解し、相手や自分自身の心と身体を大切にすること。

【取組内容】

連絡会での協議の結果、子どもたちの発問などにも対応できるよう工夫した「保健指導関連イラスト素材集」を作成し、小中学校へ配布している。また、小・中学校向けにそれぞれ標準的なプログラムを作成し、自分の体のこと、いのちについて学ぶ内容の思春期健康教室を実施してきた。しかし、学校現場だけでは保健指導に不十分さを感じ、本市の思春期の子どもの実態をまとめたファクトシート「北九州市の子どもの現実」を作成、家庭教育学級やPTA、地域での啓発をはじめている。

【結果】(平成24年半期での思春期健康教室実績)

小学校:1025人、中学校:1044人

保護者:585人(平成25年 現在)

(中学生の感想)

・体のことで悩んでいるのは自分だけでないとわかった。
・自殺を考えたことがあったが、これからはみんなと生きていこうと思った。

A-11 学校と連携した健康等に関する講習会の開催状況（2）

取組例

食育

共食チャレンジカード「みんなで食べるとおいしいね！」

【主催】山口県周南市健康増進課（食育推進市民会議）

【目的】子ども世代が家庭での共食を通して、食に関する行動を学び実践できるようにすること。

【取組内容】

- 各家庭で食事の時のあいさつや朝食の摂取状況、家族で決めた「食事に関するチャレンジ目標」を各家庭で振り返ることができるよう「共食チャレンジカード」（下記参考を参照）を実施。
- カードの活用を希望する幼稚園、保育所、小学校、中学校から各家庭（3,200人）にカード等を配布。
- 小学生以上の子どもでは、共食に関する気づきが多く、保護者では、家庭の食卓のあり方を改めて振り返る機会となった。

（平成25年版「食育白書」より一部改変）

（参考）共食チャレンジカード

この他…

子どもの1か月間の食習慣調査を実施

- 平成17年度～8年間
- 目的：家庭・学校・地域が連携して子どもの健康づくりを支援
- 個人結果を返却
- 依頼校には、調査結果を活用した学習等もあわせて実施。

A-13 スクールソーシャルワーカー活用事業

平成26年度予算額(案)：394百万円（平成25年度予算額355百万円）

補助事業者：都道府県・指定都市・中核市

補助率：1／3

関係機関

児童相談所、福祉事務所、保健・医療機関、適応指導教室、警察、家庭裁判所、保護観察所 等



学校



【校内体制づくり】

- ・校内チーム体制の構築
- ・教職員のサポート
- ・教職員等への研修 など

連携・調整

連携・調整

【関係機関との連携】

- ・ネットワークの構築
- ・関係機関との調整
- ・情報・行動連携 など

スクールソーシャルワーカー

配置人数：1,466人

教育と福祉の両面に関して、専門的な知識・技術を有するとともに、過去に教育や福祉の分野において、活動経験の実績等がある者

いじめ
暴力行為
不登校
児童虐待 等

児童生徒が置かれた様々な環境の問題への働き掛け

児童生徒

友人

家庭

地域

